

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 平井秀治
一部 10円

高教組メールアドレス
naga-kks@fs
inet.or.jp

司書専門委員会は、7月2日、「学校図書館に関する要求書」に基づき県教委交渉を行いました。高教組から山本さん(口加)、岡部さん(北陽邑)、立川さん(島工)、司書教諭の一瀬さん(長崎北)、本部から4人の計8人が参加。県教委側は木下教職員課長をはじめ、田川人事管理監ら8人が参加しましたが、誠意のない回答に終了しました。

県司書配置最悪を認めるも改善の考えなし 司書専門委員会 県教委交渉

交渉の冒頭、「正規、専任の学校司書を配置すること」をはじめとする要求に対しての回答がありました。その内容は全く前進なしのゼロ回答。文科省がまとめた学校司書配置率が長崎8.3%(全国74.2%08年度)という全国最低レベルの数値に対しては、「この数値は間違いがない」と認めながら「学校司書法制化の意見をあげつつも」は「ない」といいます。大きな支障はないなど、現状追認に終始。現場からの懇切丁寧な訴えには、「苦労はわかる」としながら、「生徒の需要には応えていない。専任司書が必要でない」との認識は変わらない」と答弁。

県は「子ども読書活動推進計画」や「学校図書館をよみがえらせるため



司書配置を要求する高教組



誠意のない答弁の県教委

●書記局からの情報● 人を増やして7年連続黒字経営 共済組合の九州中央病院

福岡の九州中央病院は私たちの共済組合が運営する病院で、職域と地域の医療を担っている。人間ドックなどでお世話になった方も多かったことだろう。

九州中央病院運営協議会(九州8県から委員各2人)がこの程、福岡で開かれ、共済長崎支部から、組合を代表する平井執行委員長と共済事務局長が出席。09年度の決算などが審議された。それによると、7年連続で黒字経営が続いていることが明らかになった。09年度のその額は、3億3千万円。入院患者は「1日平均347.9人(病床利用率98.4%)、外来1日平均886.2人」。泊を伴う人間ドック等は「1日平均25.8人」。

病院職員の尽力に応えるため「決算賞与」という規定に沿って、1億円が非常勤職員を含めた職員500人に配分された。かつては病院の存続そのものが危ぶまれた時もあり、経営改善のとりくみが行われた。いまこの改善策が功を奏したようになっている。改善の中核になったのは、医師や看護師を減らすのではなく、診療科や医師、看護師を増やすことで診療体制の充実を図った。

ところで、09年度のドック利用者は8千人を超えるが、長崎県は862人。この数は06年度1074人から年々減少傾向を示している。

なお、病棟の一部が老朽化、狭隘化で14年度完成の建て替えの構想報告があった。

第81回長崎高教組定期大会 討論

6月26日開催した定期大会での討論要旨を紹介いたします。とりくみの参考にして下さい。なお、執行部の発言は省略しています。

情報の共有と楽しい職場づくりがカギ 組織拡大・強化の分野

諫商・峰代議員

情宜を組合内だけにしておく、未組にはどの権利がどういう経過で実現したのかわからない。みんなに伝えることが大事。今分会ニュースを8号まで出している。さういふことで少しずつ組合への理解が広がっていくのではないかと。小浜・小田代議員

納得いかない仕事が増えている 教職員の生活と権利の分野

長工定・前田代議員

職場にきていた総括安全衛生委員会の報告を読んだが、超勤が月45時間を超えると健康に影響が出るなどときちんと書いてあった。しかし、働きやすい職場環境づくりに関する外部専門家の意見のまとめは、職員の自覚を強調する的外れな内容だった。

長崎西・錦戸代議員

多くの進学校で7時間授業は時間外にせざるを得ない状況がある。

参加して元気をもらおうよ 夏季教育研究集会

*8月10~11日
*いこいの村長崎(高来町)



*講演・青砥 恭さん
関東学院大学講師(高校中退問題に詳しい元高校教師)
*領域別分科会
(平和、生活指導、中退、学校づくり、職場づくり、学校図書館)

(大会討論一面より続く)
諫農・島雄代議員

公務員制度改革(労働基本権問題)や定年延長は重要な問題なので支部情報を発行して情宣したが、職場では、自分が何歳から年金をもらえるか知らない職員もかなりいる。

諫農・馬場代議員



定年制の問題は大きな話題になっている。拡大のチャンスになるのではないかと。

週休日の個別振り替えについては、分会で要請して、副校長に全職員への説明してもらった。また、昨年の校長交渉で引き出した行事の精選の検討委員会をきちんと機能させて超勤の縮減を実現したい。

◆股引は必需品◇
「北京の高校生の制服だが、上下ともジャージである。例えば「人民大学附属中学」(日本の高校のこと)超有名進学校)など背中にもネームが入り、中学ごとに色やラインが違う。夏も冬も同じ。よって、スカートが短いのだの何だの指導が要らない。大学生は日本と全く同じ。特に女の子はそれまでおしゃれできなかったが、夏は超ミニスカートの子が多いのでよく似合う。ただし、冬は寒さが厳しいのでみんなGパンである。股引は必需品。」
(諫早商業分会ニュース 4月13日号)

組合があつてよかつた

佐商・井野口代議員

組合は太陽だと思ふ。県がやるのは北風ばかり。昨年、教員免許更新講習を受けた人に聞いたが、お金と時間の浪費だったとの感想。全く資質向上につながるがっていない。今年も本音が分かる調査の実施が必要だ。

4・30教育長交渉(4) 超勤問題II

「超勤問題」で、月100時間を超える職員が普通科(全)で2割という実態から、その改善対策を求めたことに対し、寺田教育長は次のように回答。

教育長・ノー部活デーについて、時間外で多くの時間を使っているのは部活だと思ふ。部活が教育に果たしている役割は十分にわかっている。熱心な先生方が一生懸命頑張ってください。が、指導者の健康の問題は配慮しなければならぬ。

これは管理職の努め。そういうことから、3月と4月の校長会で、週1日を基本としたノー部活デーというか、2歩ぐらい前進

活高教組・指導者の中には休むことへの不安がある。また、保護者からも部活はないんですかという声もあつてやらざるを得ない。休んだら勝てないという意識があるので、せいで一斉に取り組んでいかないとけない。

校長会では3つの点で必要だと説明した。1つは教職員の健康、2つめは子どもたちの体力回復のため、3つめは家庭学習時間の確保のためという点で是非取り組んでくださいといっている。

あわせて、中学校に対してもお願いしている。中高とも、この件で1歩と2歩ぐらい前進

させたいと強く思っている。高教組・指導者の中にはローテーションをやつた方がいい。また、大会前にはそれなりの練習も必要だから、メリハリをつけて、

得ないような状況もある。だから、我々高教組も含めて、現場の教師の意見や保護者の意見も聞く必要がある。

超勤の解消という問題に関わっては、県教委の認識は極めて甘いといわざるを得ません。今回の交渉で、現在と場をつくり仕事の精選を行うことを提案しました。

ざさんや厚労省の通知内容の不徹底、ノー残業デーの不正確などが明らかになりました。また、寺田教育長自身がノー部活デーの導入を各校の管理職に促したことに関連して「実りあるやり方をしなければいけない」と回答しているように、現在の超勤解消の施策が有効性を欠いていることも県教委自ら認めたかたちとなっています。

だから、実際に100時間超の人が何が原因で長時間になつているのか、また、どんな仕事を減らしたいと思つているのかを、面接の中でも聞くべきである。

超勤の解消という問題に関わっては、県教委の認識は極めて甘いといわざるを得ません。今回の交渉で、現在と場をつくり仕事の精選を行うことを提案しました。

高教組・我々もこの問題で前進することを願っているが、もう一方で、100時間超の人のデータで、全日制普通科で特に多いと言ふことは部活の問題だけが原因と言ふことではないと考へられる。

だから、実際に100時間超の人が何が原因で長時間になつているのか、また、どんな仕事を減らしたいと思つているのかを、面接の中でも聞くべきである。

超勤の解消という問題に関わっては、県教委の認識は極めて甘いといわざるを得ません。今回の交渉で、現在と場をつくり仕事の精選を行うことを提案しました。



思ひ・想ひ・思い

ファイル

波佐見・田島代議員
うちの校長はよく職員の見解を聞くので先生方が忙しいのなら意見を言ってくれと言ふ。職場要求書をつくつて

高教組・我々もこの問題で前進することを願っているが、もう一方で、100時間超の人のデータで、全日制普通科で特に多いと言ふことは部活の問題だけが原因と言ふことではないと考へられる。

出退勤時刻調査の障害児学校のデータは正しくない。超勤が100時間を超えないように工夫したと話をする職員もいる。



島原特支・田中代議員

国民の義務を故意に怠るならば、厳しい措置が講じられても仕方がない。滞納者を擁護するつもりはないが、「9人」の理由を調査することが先決。

意外と「納税に行く時間になつた」という訳があつたりして、教育現場の労働実態を如実に示す結果が待っているのではないかと。



(続く)

(この項の討論次号へ続く)